

## 震災復興に貢献するスマートコミュニティソリューション

Smart Community Solutions Contributing to Reconstruction after Earthquake Disaster

## 巻頭言

## 震災復興に向けた日本のスマート化技術

Smart Technologies for Reconstruction of Damaged Communities in Japan

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、想定基準に基づいて構築された社会システムがいかに弱い弱であるかをわれわれに見せつけました。もちろん、あらゆる想定に100%耐えられるシステムは工学的でも現実的でもありません。カストロタワーを避けるとともに、その時点の最新技術を取り入れた次世代の姿にできるだけすばやく復興させる仕組みを、次にやって来る大震災に対して国土全体に組み込んでおくことが必要でしょう。今回の復興のキーテクノロジーの一つは、コミュニティのスマート化と言われています。震災後、マスコミなどで、スマートグリッドの実現が電力供給問題解決のキーになると何度も取り上げられますと、これはほんとうに今、すばやく復興に貢献するのだろうか、まだまだ研究開発が必要なのでは、と逆に身が引き締まるこの頃です。

スマートグリッドは、電力会社だけでなく他分野の企業や一般の電力ユーザーの機器も利用して、再生可能エネルギーが大量に連系された電力システムの停電のない安定した運用に貢献していく技術と考えることができます。そう捉えれば、従来、節電などお願いの形でしか電力ユーザーの協力を得られなかった安定な電力供給を、社会貢献の形で積極的な協力を得て実現できる、これまでにはない技術を電力ユーザーに提供することが重要になります。つまり、電力ユーザーに魅力的な製品やサービスを低価格で提供し、それを利用してもらうことにより、利便性を損なわないで社会の低炭素化と、ひいては電力システム全体の運用にも貢献をしてもらうことなのです。特定の電力ユーザーや地域だけを利するようものは受け入れられないでしょう。また、電力システムは、緊急時だけでなく平時も絶えず働き続けるものであり、この平時のコストも国民が負担していくわけですから、数百年に一度の災害時のために過大なコストをかけたスマート化は社会的に受け入れられないことは言うまでもありません。

震災前から検討されてきたわが国のコミュニティのスマート化に対する基本的な考え方は、震災後も変わることはありません。これまで産業界が着々と進めてこられた技術開発やビジネス戦略を、復興に合わせていっそう加速していかれることを期待しています。



横山 明彦  
YOKOYAMA Akihiko